地球で最も安全な場所を探して

世界は、日本は、原発から出る「核のごみ」をどうやって処分するのか
ひとりの著名な科学者がこの問題と正面から向き合う旅に出る——

JOURNEY TO THE SAFEST PLACE ON EARTH

2013年 ライプツィヒ国際ドキュメンタリー映画祭 正式出品
2014年 ヘルシンキ国際ドキュメンタリー映画祭 正式出品
2014年 ボッローニャ国際ドキュメンタリー映画祭 正式出品
2014年 DOXA ドキュメンタリー映画祭 正式出品
2014年 Planet+ ドキュメンタリー映画祭 正式出品
2014年 コペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭 正式出品

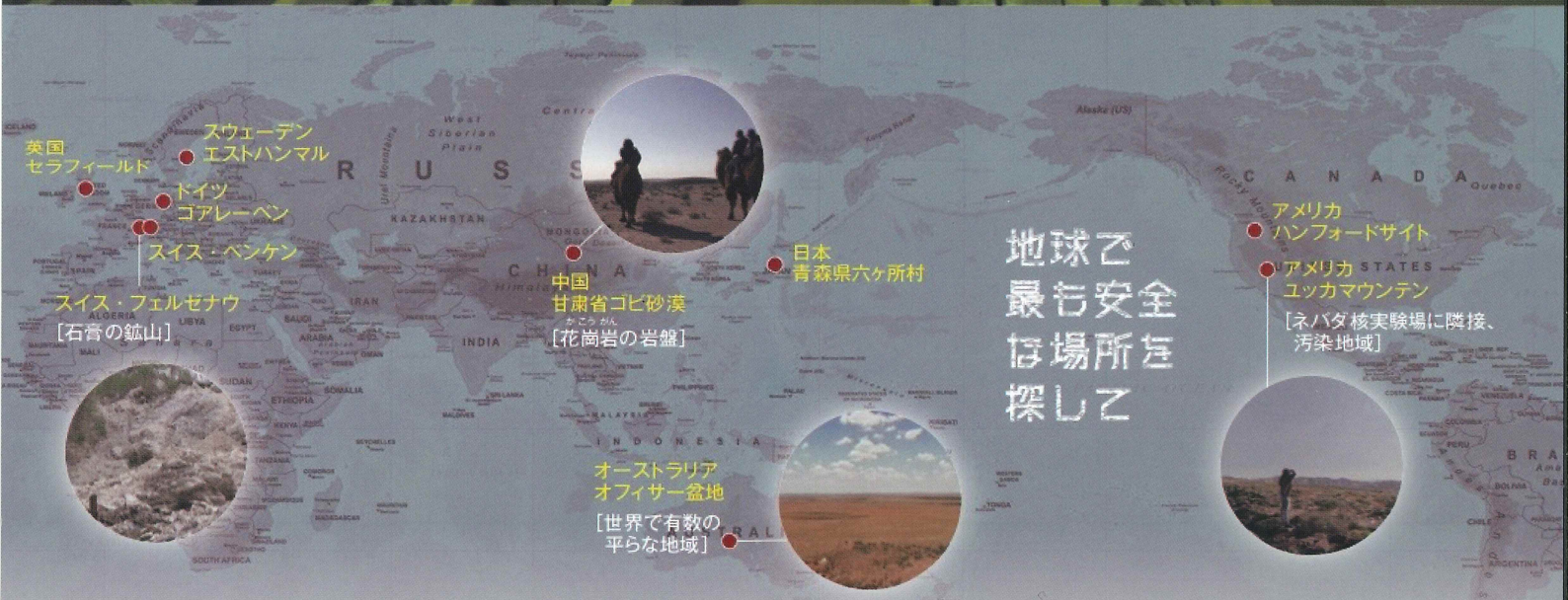
エドガー・ハーゲン監督作品　出演：チャールズ・マッコンビー　製作：ミラ・フィルム

2013年｜スイス｜英語・ドイツ語・中国語・日本語｜100分｜DCP｜カラー　後援：在日スイス大使館　日本語字幕：平井かおり　宣伝美術：遠川恵子　配給：きろくびと

“核のごみ”をどこに捨てる？
原発推進の科学者と反原発の映画監督が、“世界一安全な場所”を探す旅に出る——

この60年間で、高レベル放射性廃棄物35万トン以上が世界で蓄積された。それらの廃棄物は数万年にわたって、人間や環境に害を与えない安全な場所に保管する必要があるが、そうした施設が世界中で十分に整備されないまま“核のごみ”は増え続けている。
そんな中、英国出身・スイス在住の核物理学者で、国際的に廃棄物貯蔵問題専門家としても高名な原発推進論者のチャールズ・マッコンビーと反原発のスイス人映画監督が、この問題を解決するため、アメリカ・ユッカマウンテン、英国・セラフィールド、中国・ゴビ砂漠、青森県六ヶ所村、スウェーデン、スイスなど世界各地の最終処分場やその候補地を巡る旅に出る。
果たして世界に10万年後も安全な“楽園”を見つけることはできるのか——。

チャーズル・マッコンビー
1945年スコットランド生まれ。1978年から99年の間、スイスの放射性廃棄物管理共同組合(NAGRA)で高レベル放射性廃棄物処分計画を策定。米国科学アカデミー・放射性廃棄物処分委員会に在籍後、スイス・バーデンのArius(地域および国際地層処分協会)代表として、日本のNUMO(原子力発電環境整備機構)の最終処分計画など、世界各国の処分計画に助言している。



日本でも最終処分場候補地に北海道の2町村が手を挙げる中、いま必見のドキュメンタリー

現在、廃炉も含め60基の原発を抱える日本では2020年、北海道の寿都町と神恵内村が最終処分場の候補地として手を挙げ、11月から文献調査が開始された。2007年に高知県東洋町が立候補したが反対の動きなどを受け白紙撤回したため、実質的に今回が全国で初めてとなる。
科学者・専門家たちの理想とする提案に突きつけられる現実、現地住民の反対——。本作ではこれまで候補となった土地で起きた様々な状況を、チャールズ・マッコンビーと世界各地を巡りながら目の当たりにする。
未来への負の遺産としないため、原発推進・反対両者とも避けて通れないこの問題に正面から向き合う本作は、いままさに必見の作品である。

日本の“核のごみ”事情

2020年3月時点で全国の原発や六ヶ所村再処理工場で貯蔵されている使用済み核燃料は1万9千トンに上り、全保管容量の8割近くに達している。またそれを再処理したあとに残る高レベル放射性廃棄物はガラス固化体で2900本近くが国内外に存在する。
そもそも日本では原発からの使用済み燃料からプルトニウムやウランを取り出して再処理し、MOX燃料に加工してもう一度発電に利用、さらに燃料のプルトニウムを高速増殖炉(もんじゅ)で増やすという「核燃料サイクル」を目指していたが、六ヶ所村の再処理工場は竣工が大幅に遅れ、福井県敦賀市のもんじゅも2016年に廃炉が決まるなど、使用済み燃料自体の処理が問題になっている。

監督：エドガー・ハーゲン　出演：チャールズ・マッコンビー　製作：ミラ・フィルム　後援：在日スイス大使館　日本語字幕：平井かおり　宣伝美術：追川恵子　配給：きろくびと
2013年｜スイス｜英語・ドイツ語・中国語・日本語｜100分｜DCP｜カラー｜英題：Journey to the safest Place on Earth
kiroku-bito.com/safestplace

2025年3月16日(日)

茅ケ崎市勤労市民会館6階A研修室　①10:30 ②14:00
予約・前売り 900円・当日1000円

予約・連絡先　090-9328-3799（かめだ）ショートメール可
080-5643-8352（こぬま）ショートメール可
urufuriku@gmail.com　(かめだ)

主催：チームみつばち　協力：㊮ピースカフェちがさき